



帯山西校区 防災連絡会 第2回会議



「おびにしわくわく通信 117号」でお知らせしたことがある、「帯山西校区防災連絡会」の第2回目が、昨日4日(日)に開催されました。昨日は、避難所の運営委員会メンバー選定が行われました。1~3町内が帯山西小学校担当、4~5町内が帯山中学校と形式上はなっており、そこで、運営委員会の委員長・副委員長が、各町内などの代表の方々によって決定されました。



このように、非常天災に備えた、日常の地道な話し合いが、帯西校区を災害に強い町にしているのだと改めて感じました。また、話し合いにおいても、司会担当だけでなくみんなで議事にそって、よりよいものに練り上げられていました。体育館の会場設営の時もさりげなく地域の方がそれぞれサポートされており、帯西校区の大人の自治の力の高さを目の当たりにしました。帯西の子供たちが今、日々の授業で培う力の先にある目標となる大人のモデルが身近にあることに感動し、より学校も地域から学んでいきたいと考えた一日となりました。

ワールドカップに見る郷土選手

熱戦が続くサッカー・ワールドカップの話題で、日本全体が盛り上がっています。そんな日本選手団の一人、DF 谷口彰悟選手は、熊本・大津高校出身です。私の知り合いの甥っ子ということで以前から注目していました。この谷口選手ですが、恩師の平岡和徳総監督は「1年の時から一目置かれていた。口数はそんなに多くないが、勝つために言うべきことは言う。彰悟に言われたら仕方ないと周囲は納得する。」と人間性について語っています。



朝練があるため起床は毎朝4時半で、授業中は1回も寝なかったそうです。「自分が先生の立場で寝られたら嫌だってことが分かるんです」と平岡氏は説明します。また、主将就任が決まった2年から3年にかけての時期には、右足を疲労骨折。4カ月ほど離脱した苦しい時期も、いつも笑顔だったそうです。さらに、高校2年の冬、川崎Fのキャンプに参加した谷口選手は、口頭で“獲得オファー”を受け、断りました。その理由として、生活面などで自立していないままプロになることで「世間知らずの大人になりそうな感じがあった」と本人は理由を明かしています。進路については、両親にも相談せず、自らの意思で筑波大進学を決断したそうです。そんな谷口選手の冷静さや視野の広さを生かしたプレーに、今夜も期待しています!